

ボランティア、困っていませんか?

北区ボランティアセンターでは、区民の方のボランティア活動に関する支援を行っています。広報誌の発行やボランティア情報提供、各種助成金の案内、機材・備品の貸出などの様々な支援を行っています。詳細は、センター（075-441-1900）までお気軽にお問合せください。

北区で活躍するボランティアグループ一覧（※はボランティア又参加者募集中）

団体名	おもな活動内容	学区
絵本と京わらべうたの会「優女(やしょめ)」	図書館や児童館において、乳幼児やその母親に絵本やわらべうたを届ける活動、京わらべ歌の伝承(勉強会の開催など)	広域
かめちゃん文庫 にこにこひろば	乳幼児～小学生の親子を対象に親子文庫活動＆交流居場所づくり 未就園児対象の絵本・紙芝居の読み聞かせ、保護者同士の交流	衣笠 大宮
NPO法人 HAHATO. CO 梶文庫	小～高校生の居場所づくり＆保護者向けの相談会、勉強会の開催 ※活動を支えていただけるボランティア募集！	その他
放課後クラブ「ココ」	子どものための私設図書館を運営、ワークショップやイベントの開催 小～高校生の余暇活動を充実させる居場所を運営 ※子どもと一緒に遊ぶボランティア募集中！	上賀茂 紫野
音楽人形劇「和音」	児童館や高齢者施設で音楽をたくさん取り入れた人形劇の披露、リトミック	広域
京都ピアノうたの 音楽ひろば	高齢者施設などに出向き子育て世代を対象としたベビーマッサージ、手遊び、0歳から高齢者まで一緒に楽しむコンサート、高齢者対象のうたごえカフェ	広域
懐メロを唄おう きくの会	高齢者施設を訪問し、昭和の懐メロを聞き、声に出て歌う活動	広域
優美会	デイサービスなどの高齢者施設を訪問し、ピアノに合わせて歌ってもらう活動	広域
朗読ボランティア 「虹」	①児童館の子どもを対象に読み聞かせ、ミュージックドラマの指導 ②大人対象の朗読会、講演会	大宮、元町
北ふれあいグループ	障がいのある方と野外活動、料理教室、室内遊びと一緒に楽しむ！	広域
聖ヨゼフ整肢園 ボランティア	施設利用者が生活しやすいよう、エプロンの作成、衣類の縫い直し、おしづりの準備 ※一緒に活動していただけるボランティア募集中！	衣笠
種真希hope	高齢者や障害のある方を対象に、出雲路や桜野の畑で野菜や花を育てて収穫し、みんなで食事づくり等を楽しむ居場所の運営	その他
つどい場 てんきにな～れ	大徳寺の近くで高齢者、介護家族、学生、子育て中の方、誰もが集まる居場所の運営 ※ボランティア・参加者募集中！	鳳徳
一般財団法人 まちの学び舎ハルハウ	地域活動の拠点としてまちづくりの各種イベント、食育、学習会、健康相談等を実施	楽只
始いっぽ	町内の高齢者を対象にランチの会とラジオ体操の会の企画・運営	その他
配食ボランティア むつみ	食事作りが困難な方や、介護認定を受けておられる高齢者の方を対象に、手作りでぬくもりのある、おいしいお弁当を配達 ※調理ボランティア募集中！	元町
配食サービス 「ひまわり」	地産のものにこだわった手作りで温かみのあるお弁当を高齢者へ安否確認もかねて配達 ※調理ボランティア募集中！	楽只

物品	数量
車いす	10
液晶プロジェクター	1
スクリーン(スタンド付)	1
DVDデッキ	1
ワイヤレスマイクセット(マイク2本付属)	1
ビブス	50

物品	料金(1枚あたり)	
印刷機	版代 印刷代 用紙代	50円 1円 1円
コピー機	白黒コピー カラーコピー	10円 30円

物品	料金
会議室	各時間帯 1回500円

※ 平日の9～12時、13～17時の利用

※ 紙折機、用紙カッター、丁合機の利用は無料！



京都市北区社会福祉協議会

北区ボランティアセンター

〒603-8143
京都市北区小山上総町3
TEL : 075-441-1900 FAX : 075-441-8941
URL: <http://www.kitaku-syakyo-kyoto.jp/>
E-mail : info@kitaku-syakyo-kyoto.jp
【発行】令和2年3月



ココロをつなぐ。まちが育つ。



~ココロをつなぐ。
まちが育つ~

〈北区ボランティア広報誌〉

キラリと輝く
高齢者の力★

趣味や特技で繋がる笑顔の輪

「人と話す機会が減って寂しいな…」「最近あまり楽しみがないな…」そんなお困りごとはありませんか？

北区では住み慣れた地域で笑顔で暮らし続けることができるよう、高齢者を支える様々な取り組みが行われています。その一つとして、北老人福祉センターがあります。同センターでは、生きがいづくりや健康維持を目的に多くの方が利用されています。

その中で、趣味や特技を活かしてボランティア活動を始めた方のキラリと輝く活動例をご紹介します。

～複数の活動先で畠仕事を中心に活躍～

高齢者向けの生活支援やボランティア活動等をお話しする地域支え合い活動入門講座を受講し、ボランティア活動を始められました。



活動者のお声

「誰かの役に立てれば良いな」と思い、活動を始めました。

高齢者施設や農作業を通じた居場所づくりを行っている団体で、畠仕事を手伝っています。中には難しい作業もありますが、自分の好きなことを活かせるので楽しくやりがいもあります。自分の介護予防も兼ねて、「出来ることを無理なく」続けていきたいです。

プラス
1
ワン

～高齢者施設での将棋ボランティア～

「利用者に地域の方と交流してもらいたい！」との依頼を受け、将棋サークルの皆さん定期的なボランティア活動へと繋がりました。

活動者のお声

「好きな将棋で人の役に立てるなら」と思い活動を始めましたが、最初は施設がどこかわからず戸惑いました。相手の表情から、対局を楽しんでおられる様子が分かると嬉しいです。コミュニケーションを大切にしながら、今では「とにかく相手を楽しませたい！」という想いで活動しています。



ボランティア活動を始めた当初は戸惑いや不安があったようですが、誰かに必要とされて活動することにやりがいを感じておられる様子です。福祉施設や地域活動が身近な存在となったようで、今ではイキイキと活動されています！



去る2月24日大谷大学にて「誰もが安心して暮らし、つながりのある地域づくりをすすめるために」をテーマに北区地域福祉推進委員会シンポジウムを開催しました。地域と福祉事業所の支え合いの実践について2つの実践報告とパネルディスカッションを行い、101名の参加者が耳を傾けました。今回は、その要旨をお伝えします。

【実践報告①】保育事業所における地域連携を巡る現状と課題



報告者：池田岩太氏（北区保育園長会 会長・上賀茂こども園 園長）

- 認定こども園では、地域の子育て世帯を対象に週1回以上、園庭を開放した遊びのプログラムや離乳食の講習やバルーンアート等の取組を行っている。
- さらに取組を発展させるには、地域のニーズを把握し、各事業所の特色を理解しつつ、結び合わせする役割が必要となる。その役割を区社協に担ってもらえないだろうか。
- 子育てしやすい地域、たくさんの子どもの笑い声が聞こえる地域を共に創っていきたい。

【実践報告②】障害者事業所と地域との連携事例

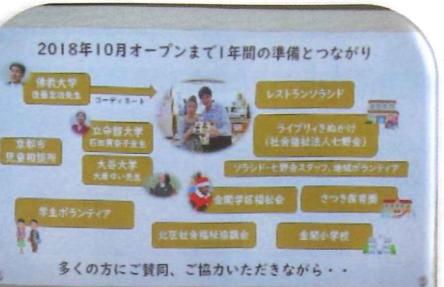
報告者：横山純一氏（元町社会福祉協議会 会長）

津村恵子氏（特定非営利活動法人 プエルタ 理事長）

- プエルタは元町学区に拠点を構え、2012年4月から障害のある青年の自立訓練を行う事業を開始。さらに、青年期の就労に向けた学びの場としてスマージーハウス パッソも開店。
- 元町学区との連携は、プエルタで出す昼食を地域のレストランに協力してもらうべく、相談する中で、前元町学区社協会長につながったのがきっかけ。
- 以降、現在まで元町まつりにプエルタやパッソが出店したり、プエルタの音楽コンサートに元町学区の高齢者が参加したりと連携が続いている。
- 最近では、通学路の見守り隊の一人が体調が悪くなり参加できなくなった際、プエルタが協力の手をあげ、プエルタの職員が子ども達の見守りを行っている。
- これまでの元町社協との連携もベースにあり、近隣の商店とのつながりも深まり、青年達の行き帰りで会話を交わしたり、何か問題に気づけばプエルタにすぐ連絡が入るなど自然な形での見守りがなされており、大変助かっている。

【パネルディスカッション】

高齢者事業所にて分野を横断し、多様な機関が強みを發揮する事例



パネラー

藤田隼平氏（介護老人保健施設ライドリーキぬかけ 事務長）
立川博司氏（金閣福祉会 会長）
土井善子氏（カフェレストラン空思都 管理者）
岡田佳子氏（さつき保育園 園長）

原谷地区は昭和後期の宅地開発により、周辺に比べると核家族が多く、高齢者の割合が低い。児童保育施設は1か所、飲食店が少ない。「子どもカフェ」（子ども食堂）のきっかけは土井さんから「一緒にやりませんか？」との誘い。食と心のバランスと親子関係の重要性について聞き、佛大後藤先生のコーディネートも得て1年の準備期間を経て2018年10月より、老健施設1階を「食べる場」「学び場」「遊び場」の3つのゾーンに分けて実施。「学び場」では、立命、大谷、佛大の大学生が子どもたちの宿題を、「遊び場」では施設職員と大学生が子どもたちと遊び、「食べる場」では、土井さんを中心に金閣福祉会からのボランティアの協力により、子どもや親へ旬を意識した食事を提供し、最近では100名を超える利用に至っている。

3つの場に加え、「語り場」もでき、親同士のつながりを深める場にもなっている。

コーディネーター 志藤修史氏（大谷大学社会学部教授）



原谷こどもカフェの発表を聞いて「3つの間」が大事だと感じた。

1つ目は時間。今の子育て世帯には時間がない。仕事と生活のせめぎあいの中でどのように時間を取り戻していくのか。2つ目は空間。親がほっこりする、子どもが勉強や自由にあそぶる場が大切。最後は仲間。つながり、できた仲間を大切にしていってほしい。

第四期北区地域福祉活動計画（案）について

北区社協事務局

2020年度から2024年度の5年間で北区の地域福祉活動を推進するための計画。基本目標として「ひとにやさしい、ひとがやさしい北区の福祉のまちづくり」を掲げ、学区社協活動の強化と区社協活動の強化の2つの基本計画からなる。学区社協活動の強化については、2つの実施計画、区社協活動の強化は7つの実施計画を設定している。この7つの実施計画の中の1つに地域と福祉事業所の連携促進があり、地域との連携に関する事業所の状況の把握と把握した情報の共有と発信を行うこととしている。なお、池田会長のお話にもあったが、地域と福祉事業所の互いの強みを生かして結びあわせる役割を区社協が担っていかなければと考えている。